



森のなごま

2009年12月号

NO. 20 (継続165)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

赤ちゃんと、ともにはぐむ森づくり

成長の森・見学会開催 11/3(火) 文化の日



バス 到着です。



紅葉が美しい



成長の森へ、成長の森へ



回った!回った!
(ゲームコーナーにて)



人工林を登ります。



寄沢を渡って...

平成21年度・成長の森見学会は1回目の10月25日が悪天候で中止になりましたが、11月3日(文化の日)は、それを取り返すような良い天気にも恵まれ156の方が参加され、インストラクター15人が案内係として務めさせて頂きました。麓の民宿「しおや」さんの鹿シチューや我が会が誇るグッツコーナー、ゲームコーナーも店開きして、盛り上がりました。成長の森へ出発前には、グッツコーナーで杖を買い求めるおばあちゃんや「こういうものはここに来なければ手に入らないんだよなあー」と言うおじいちゃんも現われ大賑わい、21年度のこのコースは沢を渡り、人工林を登り、ミツマタの群落やムササビの樹洞も観察できるので、季節を変え訪れる方がこれからも多くなると思います。(M)

(写真; 女川 修氏(9期)・広報部 鈴木松弘)



銘板の前に・ハイ・チーズ!!

皆様、こんにちは 鳥飼一俊 <11期>

私は先日、横浜で行われた閉講式において認定証を授与され、晴れて神奈川県森林インストラクターとなった11期35人の仲間のひとりです。仲間を代表してご挨拶いたします。

1995年秋、私と家内は丹沢山を縦走しました。ブナの林、笹の原、満員の山小屋の外は凍える寒さ、見上げると満天の星。素晴らしい大自然に感動した丹沢の山中でした。

2006年秋、私は初めて寄での集いに参加しました。インストラクターからの楽しいアイスブレイキングのあと、山から採ってきたという蔓を使って工作をしました。溪流の瀬音を耳に、秋冷の空気を肌を感じながら、創造力の乏しい自分を嘆きながらも蔓で花器を編みました。それには今、家内が植木ポットを入れてくれています。

インストラクターの方たちが、甲斐甲斐しく行動している姿に、感銘を受け、私もしてみたいなと思いました。県のほうに尋ねると今年は募集しないとのこと、残念でした。

2007年春、高麗山での自然観察会に参加しました。春の息吹、フキノトウを見ました。イヌビワコバチの物語を聴きました。スイカズラ、イヌシデ、アリドオシ、サンゴジュ・・・植物の話題、森の様子、話してくださるインストラクターの熱意に、再び感銘を受けました。私もどうしてもやりたい。その思いが募りましたが、県では募集がないのでやむなく、全国森林インストラクターの勉強を始め、その年、合格しました。

2008年春、待ち望んでいた県の広報誌に養成講座開催の案内が掲載され、早速小論文を書いて応募しました。そして、その夏から始まった講座は今年、2009年11月7日に閉講式を迎えました。35人の仲間と共に森林を学んだ1年半の月日の楽しかったこと。思いを同じにする仲間たちとの交遊の愉快だったこと。講座に講師として来てくださった先輩インストラクターの方たちの真摯な姿に接し、早く私たちもあのように活躍したい、と思いました。

11期生も皆様と同様、若さ溢れる青年、漲る情熱の熟年、多士済済の老若男女たちです。思いは胸にたくさん詰まっています。それをこれから実行に移していきたいと思っていますが、右も左もわからない私たちです。どうかよろしくご指導くださいませよう、お願いいたします。

Kyってしてますか？

安全危機管理委員長 武川 俊二

先日、ボランティアネットワーク活動で、とある企業の間伐体験をお世話しました。グループのリーダーは、「それでは、KY活動を始めます」同行した担当者は、「ケイワイって空気読めないのこと?? 違うよね」

雰囲気から明らかに「空気読めない」でないことは窺い知れる。さて、何だろう。KYとはれっきとした産業活動用語です。そう、危険予測活動の略で、労働災害防止の為、様々な労働現場で用いられている用語です。それがどういう訳か「空気読めない」に成ってしまいました。

考察1、とある労働現場でのできごと。作業終了後のKY活動を行うぞ、みな集まってとの班長の言葉が響く。就職して間もない従業員は、今日は約束があるので即帰りたいのですが、と小声でささやくが、班長には届かない。若い従業員は、怒り心頭、もう本当に空気が読めないんだから。とその怒りを携帯メールでなじみのラジオ番組に送信。「なにがKYだよ。空気読めないのはお前だ!!」ラジオの司会者は、このメールを見て「面白い。KYなやつは、ここにもいる。」とばかりに喋りまくった。ラジオを聴いていた女子高校生達は、あっという間にKY=空気読めないと理解し、多用していききました。今から5年ほど前の話です。こうして、KYは、全く別な意味として世間に広く知れ渡り、国会答弁でも発せられるように成ってしまいました。さて、KYを本来の意味に戻して考えてみましょう。危険予測とは、あらかじめ、起こりうる危険要素を予測し、事前に危険を回避する事です。森林ボランティアの現場では、非常に重要なことの一つです。危険要素とは、多種多様です。まず、のこぎり、鎌などをつかう際の危険。言うまでもなく、刃物は正しく使うことによって安全は保たれます。また、間伐作業などの活動は、多くの危険を孕みます。それらの危険要素を一つ一つ回避して安全な作業体験が担保されます。伐採するとき、倒す方向に人がいないかどうかの確認をします。常識では、人がいるところに倒すことは非常に危険です。しかし、ついうっかり、人のいるところに倒してしまう。そんな先まで届くとは思わなかった、倒す方向が変わってしまった、などなどがその原因と思われる。

そこでもう一度、ボランティア活動の作業開始前にKY活動を行って、どんな危険が予測され、それはどうすれば避けることができるかを考えることを行ってみましょう。

先ほどの企業では、予想される危険として、
・ 斜面上り下りでの転倒、転落、
・ なた、のこぎり使用中による怪我、
・ 無理な作業姿勢による腰痛、
など15項目ほどあげ、その対策を抽出し、
安全な作業を計っていました。知っていても実行に移せない、忘れていたということを防ぐ為に、
作業前の危険予測作業（KY活動）は、そのことを確認するよい手順です。

楽しく安全なボランティア体験をする為に KY活動をやってみませんか。

どうぶつシリーズ 3

やどりき水源林はびっくり箱

管理棟の怪)

滝澤 洋子 <5期>

この秋、あたりが薄暗くなってきた頃、管理棟でひとり森の案内人連絡ノートに記入していると、天井から何か走り回る音がしてきました。タタタタタ・・・。これまでもヒメネズミが管理棟に住み込んでいることはあったのですが、それよりは体重がありそうな足音のようです。タタタタタタ、ザザア。タタタタタタ、ザザア。この「ザザア」は屋根の勾配を滑り台にしているのではないかと思われるような音です。遊んでいるようにも思ってしまう。急いで外へ出てみましたが、音は屋根の中から聞こえてきます。どうも屋根と天井の隙間にいるらしい。一人でいると隅っから音の主がひょっこり顔を出してきそうで、ワクワクとドキドキの複雑な気分になってきました。今度はカリカリカリ。「これ、齧るでないよ。」と、わざと声を出してみたりしたのです。8月末、昼間にも、このタタタタタ、ザザアの音がしましたが、同じ主なのか。そういえば9年ほど前、「県民参加のモニタリング調査」の動物班で夜間調査をする為、参加者みんなで暗くなるのを管理棟で待っていたら、天井の上で水平方向に何回も往復する音がしました。それにしても、いったいあなたは誰。あなたに会いたい。
あっ、動物でなかったなら・・・何？

夜のやどりき水源林

やどりき等の水源林で山作業をしている方が、こんな話をしてくれました。山の上で仕事をしていると、山を下りる頃には暗くなってしまうことがあるが、ある時、真っ暗になった森林の中を急いで下っていると、頭の横を何かがかすめて行き、心臓が止まるかと思ったというのです。

真っ暗な中を歩く時に目や耳だけでなく皮膚の感覚までも総動員しているような感じがすることは皆さんも経験があるかと思いますが、こんな状態の時に突然横を何かがかすめて行ったらどうしますか。この時かすめて行ったものは、空飛ぶ座布団と言われるムササビだったのだそうです。でも、ムササビの存在を知らなかったら、きっと「化け物が出たあ」と転げ下りて来るはめになるのでしょうね。

さて、夜のやどりき水源林はどうなっているのでしょうか。ムササビがスギの木の高い所で実を齧り、次は広葉樹林に滑空して葉っぱを食べていたり、いつものけもの道をテンやアナグマやタヌキが澄まし顔で通り、また同じ道を通って帰って行ったり、人のいない林道をシカがゆっくり歩きまわったり、イノシシが鼻づらで地面を掘り返してたり。彼らが残した落し物や足跡から夜の水源林を想像するだけでも楽しくなります。



林の中で、スギの実が丸かじりした青りんごのように落ちていたのを見つけたら、もしかして昨夜ムササビがこの上の枝の所でスギの実を食べていたのかも。

私の認識

野鳥その73

高橋 恒通

スズメ目ホオジロ科の野鳥の2番手は冬鳥のカシラダカ（漢和名：頭高、英名：Rustic Bunting、体長L=15cm）です。

体色は前稿のホオジロと大変によく似ているので、ビギナーには悩ましい野鳥です。

カシラダカは特に 頭部の色が、夏羽と冬羽とでは大きく変化します。この野鳥の名前の根拠となった“頭高”とは 共に良く冠羽を立てて行動する為です。その冠羽のある頭部の色ですが、夏羽の 頭部は黒く、目の上から後方に伸びる白色の眉斑（眉線）が1本のみで頬も黒色です。冬羽の は、その黒色の部分が暗褐色に変わります。

頭部以外で背面は殆どホオジロと同じですが、胸前と下面全体が白色なのがカシラダカ、淡褐色なのがホオジロです。従って冬季の探鳥会の折にホオジロとカシラダカを見分ける最大のポイントは、胸前から下面にかけての色だと私は認識しております。



の体色は夏羽、冬羽の差が殆ど無くて頭部から背面が より僅かに淡い茶褐色で、胸前から下面はやはり白色です。

棲息環境は、平地から山地の疎林、灌木のある草地や葦原などです。

地表に降りて草木の種子などを採食する点などはホオジロと同じです。

私自身は冬季の探鳥会で「チッ」と言う地鳴きの声を聴くと、身に付いた習慣で咄嗟に、ホオジロ、カシラダカそしてアオジのどれかをイメージします。私の経験では、この3種は同じ様な環境の処に居る事が多く、特に前2種は混じって居た場面も幾度かありました。

地鳴きは、ホオジロが「チッチッ」か「チッチッチッ」に対してカシラダカは「チッ」「チッ」と一声づつです。特にカシラダカの「チッ」はか細く感じられます。

そして双眼鏡の中に入った個体の胸前から下面をすぐ確認し、白かったらカシラダカ、茶褐色ならホオジロ、続いて頭部の色模様を確認し種と雌雄の判定をします。

因みにホオジロ科のアオジ（後稿で詳しくご案内します。）の地鳴きは「チッ」と一声づつですが、注意深く聴くと「ジェッ」と濁って力強いので、声だけの判別が出来ました。

然しながら、私自身はこの1年位の間に急に耳が遠くなり、地鳴きの声のみでの判別が困難となって来てます。やはり現物の姿を確認する事。これが最重要判断材料であります。

私も73才「加齢による部品の勤続疲労」と言う自然の摂理を残念ですが受け入れざるを得ません。

これを、「華麗 加齢 なる変身」と呼ぶようです。では、話を元に戻しましょう。

カシラダカは、世界地図上で見ますと、アリューシャン列島からシベリア北部を経てフィンランドに至る地域で繁殖します。そして冬季には南へ移り、日本には冬鳥として越冬の為に全国各地に渡来する野鳥と確認してます。

参考書によりますとカシラダカは、我国に渡って来る山野の小鳥の中で、その数がツグミと同様に多い冬鳥だそうです。

そして春がきて北への渡去前には、ヒバリの囀りを思わせる様な「ピピチュルピピピチュョリー」と早口のぐぜりー囀りに似て小さく呟くような鳴き声一をするそうですが、私は未だに聞いておりません。若し出来るなら繁殖期の の囀りも聴いてみたいと思っております。



< 参考資料 >

日本の野鳥 山溪ハンディ図鑑7 写真・解説/
叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴き声）/上田秀雄、山と溪谷社。

とり、自然ガイド、浜口哲一・文、佐野裕彦・絵、
文一総合出版。

日本の野鳥、山溪カラー名鑑、編・高野伸二、
山と溪谷社

グランド現代百科事典5、研究社

写真：yahoo 写真事典より

本の紹介

ゴルフ場は自然がいっぱい
田中 敦夫 著

堤 洋 8期



かつてゴルフ場は環境破壊の元凶とまで言われ、その開発に携わるのが、悪魔とまで言われた経験のある者にとってこの表題は興味を惹くものであり、環境に関心を持つ方々には是非とも一読をお願いしたい本であります。

ゴルフ場は既存の農地以上に農薬の散布量は少なく、緑被で覆われているため、

土砂の排出量は森林と遜色の無いものになっており農用地と比較するまでも無い。生態的にも、グリーンやラフ、コース間の樹林や植栽、同時に人の立ち入り制限をしているために小動物や鳥類に取っては天敵となる人間や大型の哺乳類等がないことで繁殖の場にもなっているようです。

その意味では、里山の崩壊が叫ばれ自然環境の保全が求められる都市近郊の里山の活性化や保全策を考えるのにこのゴルフ場の現状を冷静に考えることも重要と思います。ある意味では、自然回復の見本にも感じられます。

ゴルフ場は、18Hで概ね100ha以上の土地を必要とし、1日100~150人程度の入込数で、土地利用効率の悪い、高価で贅沢な遊びとっていました。

この本は、著者が論文や知見を集めゴルフ場を実際に訪問し現在のゴルフ場がそうであるのかを問いかけたものです。ちなみに著者はゴルフはしないそうです。

ゴルフ場造成工事の現場体験は踏まえていないようで、具体的な地形の改造や水系の変更等には触れていませんが、現在のゴルフ場については農用地以上に土壌の流出防止や生態系の保全に取り組んでいる姿には驚かされます。ゴルフ場の植生の割合は、18hのゴルフ場では森林(既存+造成)が約57%、芝生が約42%、建物等は残りの1~3%程度だそうです。ほぼ完全に緑被で覆われていて下手な公園より緑被は多い。絶滅危惧種の動物が26種、植物が16種確認されたという文献もあるという。既成概念を変えるべきと思います。

ゴルフ場は会員制度地域社会に馴染めない別世界を築いてきたことが各種の悪い風評を招いてきたのかも知れない。しかし、その閉鎖性を抜けて地域社会との交わりを持つことが、この良好な自然環境を世間の人々に理解してもらえるかなとも思います。

(ちくま新書 740円+税)

松田町 だより
芋焼酎で町おこし 4

芋焼酎の出来上がりは
来年3月中旬で~す!

10/17(土)に芋の収穫が行われ、3,5トンの収穫となりました。その日のうちに九州の醸造会社に配送し、現在醸造中です。美味しい焼酎にするため寝かし期間を頂きました。完成は3月中旬を予定しております。もうしばらくお待ちください。焼酎の瓶に貼る「ラベル」が決まりました。松田出身で現在小田原に在住の芳澤画伯にお願いし作成していただきました。

活動短信

10/10~11/15

森林循環フェアへの協力

- 日 11月6日(金)~8日(日)
場 湘南モールフィル
イ 11/6 武本、村井、角田、
11/7 伊藤、落合、横山
11/8 森本、横山、須長、

県産材の活用を訴求する「森林循環フェア実行委員会」への事業協力で、昨年来のもの。今年は、台付きの「シュロバッタ」を採り上げた。会場は、藤沢市の大形モールで、集客力は抜群。葉っぱ1枚でつくるバッタに、「リアルねー」の声が多数あり、確かな手応えを感じた。加えて、絵画コンクール関連で、書けない鉛筆1200本の注文あり。製作者であるグズマイスターの方々と、今回の台を用意していただいた四季の森里山研究会に感謝。

<改善点>

- ・ メッセージボードの設置(出し物と会のPR)
- ・ 参加者の年齢制限(小学校高学年以上が無難)
- ・ 見せ方や作り方の更なる工夫など

(記 5期 森本)

活動短信

工藤建設(株)FGショールームオープニング祭

日 10月10日(土)10時~16時

場 工藤建設(株)

参 子供30名

イ L千葉、宮本、

住宅販売会社工藤建設のショールームに、工藤建設のお客様を招待するイベントに参加した。ショールーム内に、どんぐりを使った工作が出来る「森林コーナー」が設置され、来場した家族の子供を対象にした工作教室を行った。参加した子供たちは、小学校入学前の幼児から上は小学6年生くらいまで。工作の内容は、準備されたどんぐり(マテバシイ、クヌギ)やモミジバフウの実を工作用ボンドを使い流木や桜の枝に飾っていくこと。どんぐりに、白や赤のマジックで顔を書き、クヌギの殻斗を帽子に見立てたり、夢中になって作っていく。工作途中で、どんぐりをドリルで穴を開ける作業だけは、インストラクターが行った。

この森林コーナーがとても好評だったようで、当初1日だけだったイベントが3連休すべて森林コーナーでの工作教室が開催される事になった。大人たちが、住宅についての商談をしている中、安心して子供たちを預けられるようだ。(記7期 千葉)

自然観察 物作り

日 10月20日(火)9時半~13時半

場 県立21世紀の森

参 横浜市立善部小学校生徒・96名

財 古館

イ L内野、竹島、宮本、横山、斉藤、須長、加藤、時田、

朝、集合した生徒たちは2泊3日の最終日とあって少し疲れた様子。各班で準備体操をして歩き始めると元気が出てきた。いろいろな物を見つけて、質問をしてくる。興味津々の様子で案内のし甲斐があった。昼食を班ごとに食べて早々にクラフトに夢中になる。拾った木の実、用意したドングリで作ったブローチやドングリこま、和紙のしおり、笹舟、ムクロジを使ったシャボン玉、葉っぱのプリント、木のピースなど、各班それぞれのおみやげを持って帰りのバスから手を振る姿は満足げであった。

学校からの要望は、インストラクターは得意分野の先生に、何かおみやげ(拾ったものでも)をだったが、下見を丁寧におこなったので応えることができたと思う。各インストラクターの工夫が大変参考になった。(記9期 内野)

神奈川県法人会連合会『法人会の森』植栽

日 10月24日(土)9時~13時10分

場 秦野市寺山(ヤビツの森)法人会の森

参 法人会会員 約270名

県 森林課 久富、小司、 青木

イ L佐藤、鈴木、長谷山、鈴木、横山、山崎、草野、佐藤、飯澤、内野、高橋、村井、海野、金森、後藤、酒井、中元、

今年で10年になる法人会の森にブナ・コナラ・クヌギ・ケヤマハンノキ合計720本の植樹が行われた。県内各地から参加した皆さんのうち、植樹は始めてという人がおよそ半数、この方たちにはインストラクターからの説明を聞いて立派な木に育つようにしっかり植えていただくことをお願いするなど、全体説明では植える場所の竹ポールの扱い、植え方のポイント、安全注意などをして、作業にかかった。苗木の配分に手間取る場面があったが、植付け作業は順調に進みおよそ1時間程で無事完了。作業後、グループ毎に記念撮影している光景が見られ参加者の皆さんには良い記念になったようであった。(記5期 佐藤)

県民参加の森林づくり

日 10月31日(土)8時~14時 晴れ

場 相模原市津久井町鳥屋(水源林・松が尾)

参 63名

財 高橋、永島、 青木、津久井森林組合、永井、
イ L金森、長谷山、柏倉、宮本、稲部、
大道、鈴木孝、富樫、愛木、塩谷、
清水良、野牛、内野、大澤、松山

清々しい秋空のもと間伐を行った。初心者が多かったため、説明など丁寧に行った後、小径の物から徐々に太い物に挑戦、暗い人工林がたちまち明るくなった。難しい枯れ木が多かったが怪我もなく、無事に終える事ができた。昼食後、「ミニ講話」“ハイイロチョッキリの産卵”を行った。

虫の話題は新鮮だったようで終了時大きな拍手を頂いた。行きと帰りに宮ヶ瀬湖畔の鳥屋休憩所に立ち寄った。地元の野菜やお土産を買い込んだ方が多く思わぬサプライズとなった。

(記10期 金森)

自然観察/アオキの除伐

日 10月31日(土)10時~15時 晴れ

場 県立21世紀の森

参 神奈川SR労務センター 石井会長他25名

(内女性6名)

イ L村井、島岡、加藤、

天然の森コースを3班に分け自然観察しながら、セントラル広場近くの現場に向かった。

昼食後、アオキの伐採を約1時間半行った。予想以上の成果を得て、明るい森を実感した。

終了後の懇親会で、楽しかったので、社会奉仕のこの活動に来年も参加したいという多くの感想を頂いた。(記8期 加藤)

環境ボランティア活動(ゴミ拾い)・自然観察

日 10月31日(土) 晴れ
場 やどりき水源林～寄バス停
参 リコー販売(株) 得意先と社員約60名。
 (内 子供10名)
イ L野田、佐藤(武)、松村(晴)、松本、
 天候に恵まれ、山は装いを新たに始めたときで最
 高の舞台の中での自然観察と寄(やどりき)バス停ま
 でのゴミ拾いが行なわれました。
 参加された方々は、自然から離れてしまった若い人が
 多かったのですが、澄んだ空気の中で紅葉の始まった
 やどりき水源林並びにバス停までの道々での活動を充
 分に楽しんでおられました。
 また、お昼は寄(やどりき)バス停の広場でのバーベ
 キューを堪能され楽しい一日を過ごされました。
 (記 8期 野田)

NECエレクトロニクス(株)パートナー林の間伐
 & クリスマスリース作り

日 11月7日(日) 10時～14時半 晴れ。
場 やどりき水源林
参 12名(幼児1、乳児1)(間伐8、つる採取1、
 調理1、)
員 田中、
イ L加藤、戸谷、白畑、
 午前：間伐 ボランティア林での活動となり、
 各グループ、ヒノキを2本づつ伐る
 Aグループ(大人5名、こども1名)
 Bグループ(大人3名)
 つる採取 寄沢の両岸でフジづるなど採取。
 その後オオバヤシャブシ、ノイバラの実などを
 集める。(NEC 傳田様、白畑の2名)
 午後：クリスマスリース作り 13時45分～14時45分
 (当初14:30終了予定を延長)
 ツルの持つ自然物の良さを生かしたリース
 作りをする。
 マツボックリ、どんぐりなどの固定する方
 法を幾つか紹介する。
 色合いや、バランスなどのアドバイスをす
 る。
 木の実、およそ20種を用意。マツボックリ、
 モミジバフウ、オオバヤシャブシ、コメツガ、
 メタセコイア、カラマツなどが人気だった。木
 の実を眺めるだけで、みなさんの顔がほころん
 でいくと同時に空気が和んだ。談笑しながら思
 い思いに飾りつけられて、なんとか時間内に終
 わる。まだつけ足り無い方には、好きな実を持
 ち帰って家で完成させていただく。
 (記 7期 白畑)

新日本石油・間伐・木工・自然観察Bコース報告

日 11月8日(日) 晴れ 10時～12時
場 やどりき水源林
参 163名・自然観察には44名
員 森林課 斉藤、
イ L鈴木孝、L村井(自然観察)
 高橋、相馬、宮本、斉藤、愛木、

小野、久保寺、有坂、佐藤、加藤、
 高橋、酒井、
 集会棟前で杉の輪切りを見せて、年輪のしくみ、
 光合成、温暖化と森林の重要性の話をし、次は神社
 参拝し、丹沢の山ノ神の話。Bコースに下り、
 ヒノキ、クロモジ、サンショ、ミヤマシキミ、ヤブ
 ニッケイ等の香りとフィトンチッド、その効用、
 マムシグサの → への変化と花粉媒介昆虫の
 話、交差する沢では水生生物の話、看板のあるとこ
 ろでは、森林づくりの話がメインでした。
 <提案> 子供1名参加、しかも低学年、当然話は大人
 向けとなってしまう、子供にはかわいそうでした
 が、例の場所で「ムササビ」の説明する折自前の写
 真、どんぐり飾りをあげて喜んでもらいました。子
 供ばかり集めてグループを作ったほうがよいかもし
 れません。(記 4期 宮本)

連合神奈川・間伐・枝打ち

日 11月15日(日) 8時45分～15時半 晴れ
場 やどりき水源林「連合神奈川の森」
参 120名
員 森林課 斉藤、有馬
イ L戸谷、伊藤、小野、佐藤、松村晴、
 飯澤、辻村、青木、金森、松山、

9時45分より林道奥の小広場でセレモニーを行
 い、セレモニーや準備体操終了後、参加者120名
 を10グループに分け、各グループを1名のインス
 トラクターが担当してグループから順次連合神奈
 川の森とその周辺の作業場へ入る。

今回は、シニアから幼児連れの家族や若者集団と
 年齢層が広く多彩で、また参加者が多いので作業の
 安全を第一優先とし、事前のインストラクターの打
 ち合わせで「グループ内での小グループ化は行わず
 にグループ全員で一本ずつ切り進める。」事を確認し
 た。

作業場は枝掛りが避けられない状況で、各グルー
 プ、ヒノキ1本を間伐して倒木の枝払いと玉切処理
 をしたら作業時間が終わってしまいましたが、シニ
 アの仲間、若者達、ご家族と、皆様それぞれに汗を
 流して作業を楽しんでいました。

急傾斜地に沢山の人が入ったの作業でしたが、事
 故や怪我も無く全員が安全に作業を終える事ができ
 ましたのは各インストラクターの細心の注意による
 賜物と感謝しています。(記 6期 戸谷)

お詫びと訂正
 森のなかま 11月号 P5 「活動短信」10期 酒井さんの
 文中 2行目捕獲 → 補植 4行目偉大 → 多大に
 訂正いたします。(M)

やどりき水源林
ミニガイド

11月のトピックス

・水源林内の遊歩道Aコース、Bコース、林道コースの樹木合計80本に樹名板を設置する作業が進められています。11月中には完成の予定です。樹種名をはじめ特徴などが書いてあり、Q&Aつきも35本あります。



12月の水源林

・いよいよ冬本番です。毎週土曜、日曜の定例観察会は12月から来年2月まで中止し、3月から再開します。

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・午後1時より1～2時間程度（冬季休止）

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(財)かながわトラスとみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

●ホームページ：：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

県立生命の星・地球博物館企画展

～押し葉 古瀬 義 植物標本コレクション～

古瀬 義氏は戦前より日本各地を歩き15万点以上の押し葉標本を製作。プラントハンター(植物採集家)と言われて、海外の標本庫にも収められています。

開催:2009・12/5(土)～2010・2/21(日)

時間:9時～16時半(入館は16時まで)

問い合わせ:0465-21-1515

県立生命の星・地球博物館

森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

< 配信希望・手書き原稿送り先 >

森 義徳 〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784/Fax/<株リコー・森宛

045-590-1910>

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

< メール・手書き原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良2丁目10-5

Tel/Fax: 045-961-6695

Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

原稿の締切は毎月20日です。

< 編集後記 >

神奈川県森林インストラクター11期生の方々が認定されました。おめでとうございます。歓迎いたします。まずは得意分野で力を発揮しながら活動範囲を少しずつ広げてゆかれたらよいと思います。フィールドで待ってます。(金森)

政権交代、予算削減風景拝見、森林関係の文字は見当たらないが、風が吹けば桶屋の例えが有る。我々の活動にどのような影響有るか不明。今年も、会報投稿、編集、そして編集後記読者に御礼。師走に入りご自愛を。(鈴木松)

先日、妻が新型インフルになりました。私は未だに隔離勤務対応をしています。みなさん、くれぐれもうがいと手洗いを欠かさずに!自衛が一番ですよ!(森)

寒がりの我が家では早々にこたつを出し、この原稿もこたつに入りこんで書いています。5月までの半年間はこたつ中心の生活です。(井出)

クリスマスとは縁遠い人間ですが、この時期そろそろあちこちで見られ始めるツリーのイルミネーションを見ると心温まる気がします

(鈴木朗)

右足の膝の筋肉が固まり屈折が思うように行かなくなった事で、4年間も続いたバイトを止めるはめになったのに、10月は10回11月は8回のボランティア活動に参加。でも12月はおとなしく治療に専念と・・・考えてます。来年も熱く燃えたいからね・・・(村井)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(領価200円送料共)

編集人:村井正孝

広報部:井出恒夫(HP)鈴木松弘

金森 巖 森本正信

森 義徳 鈴木朗

やどりき水源林 *** 間伐大会 森林部会主催

平成22年 2月6日(土)9時～15時 会員外の参加大歓迎です

やどりき水源林管理棟前集合9時

持ち物:タオル、軍手、山登りの出来る服装、靴、飲み物、昼食、

間伐用具:のこぎり、ヘルメット、をお持ちの方はご持参ください。

お持ちでない方は、当方で用意しますのでご安心ください。

参加費:500円(保険料代)当日いただきます。

申し込み他:046-252-6857/E-mail:take@oct.email.ne.jp 武川まで